

平成29年度 学校経営方針

佐世保市立清水中学校

校長 妻夫木 敏明

1 はじめに

学校とは、法律に基づく物的・人的要件を備え、教育目標達成のための教育課程により、組織的、継続的に教育活動を行う組織体である。同時に「人を育てる場」でもある。生徒が、毎朝期待を胸に登校し、安全で充実した学校生活を送り、満足して下校できる清水中学校でありたい。

一人一人の教職員が個々の能力や特性を発揮し、率先垂範、叱咤激励、愛情をもった教育実践の「後ろ姿」にこそ、生徒たちは「感化」されていくものと確信する。

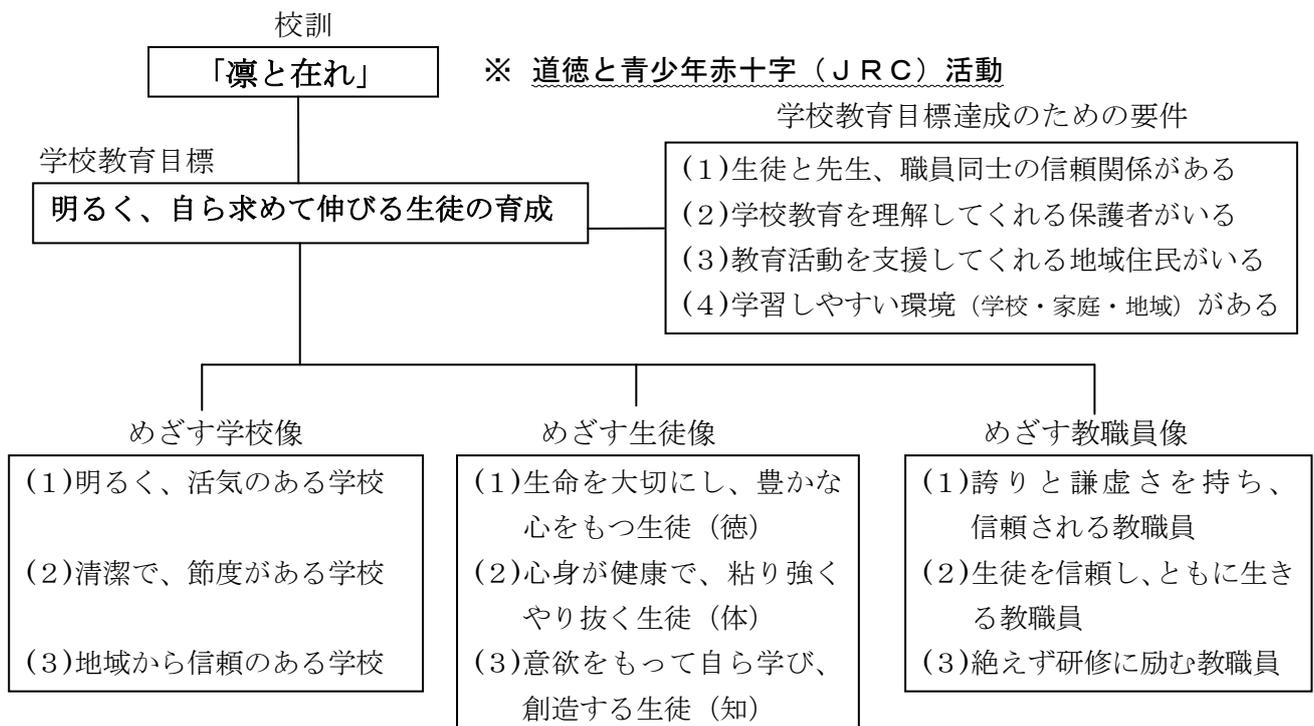
平成29年度は、9名の転入があり、新たな出会いとともに清水中学校の船出となった。「学校の主体である生徒」のために職員が一致協力し、将来を見据えた指導と支援に専念し、校訓「凛と在れ」と道徳教育並びに青少年赤十字（JRC）活動を2本柱として、学校教育目標の具現化を図り、保護者・地域住民の信託に応える、「日本一の清水中学校」を目指したい。

2 教育理念

「教師は最大の教育環境である」ことを自覚し、日々の教育実践に努めたい。また、生徒の変容の姿をもって自己の教育実践を語りたい。

学校教育の最低限の目標は、生徒たちが、国民として心豊かに生きていくための必要な知識を学び、社会の中で他と協調して生活していくための基礎・基本（態度）を確実に身につけさせ、将来の良き納税者へと育てていくことであると認識している。

3 校訓・教育目標



伝統的な「型」「礼儀」を尊重し、人的・物的・言語的環境を整え、文武両道をめざしていきたい

4 学校経営の基本方針

長崎県教育委員会及び佐世保市教育委員会の基本方針及び努力目標に基づき、地域社会や生徒の実態を踏まえ、教育専門職としての自覚と使命感に徹し、教育の活性化に努める。

- ・「教育は子どものためにある、決してその逆ではない。」
- ・「一人のこどもを粗末にすると、教育はその光を失う。」（ペスタロッチ）を肝に銘ずる。
- ・学校経営は、全職員が参画し、その経営のすべての責任をとるのが校長である。
- ・「学び続ける者にして、はじめて師たり得る。」最大・最高の教育環境は教職員である。

(1) 学校経営の基盤

① 公教育を行う。

- ・清水中学校の教育は、日本国憲法及び教育基本法に示された教育理念に基づき、関係諸法規並びに教育課程の基準である学習指導要領に即して行う。
- ・長崎県及び佐世保市の教育方針・施策に則るとともに、学校管理規則に従い行う。

② 本校の課題及び現代社会の要請に応える。

- ・社会の変化に対応し、心豊かな生徒（人間）の育成
- ・食・徳・体・知の調和のとれた、創造性豊かなたくましい生徒の育成に努める。
- ・人間尊重を基盤とした教育の推進 ← 道徳及び青少年赤十字の実践目標と態度目標

③ 生徒や地域社会の実態に立脚する。

- ・清水中学校区の特性を理解し、日々の教育活動に反映する。
- ・学校教育に関心が高く、協力的である保護者・地域との連携を有効に進める。
- ・生徒の良さを認め励まし、一層の自主・自律的態度の育成を目指していく。

(2) 学校経営の理念

① 学校は組織体

互いに切磋琢磨し、また組織として協力し校務を最大限に果たすことで、教育効果を最大限に高める。

② 感動なくして前進なし

教育活動に熱意を持って取り組めば多くの感動があります。「ふれあい 認め合い 高め合い 響き合い」の中に感動があり、感動があつてこそ人は前進する。

③ 期待なくして信頼なし

生徒が自ら取り組んだり、指導されたことが出来たときは褒めて伸ばす。期待され存在感、所属感が高まれば生徒は成長する。

④ 研修以外に教育の王道なし

わかりやすい授業実践、そのために授業改善に取り組み基礎学力の定着と向上をめざす。

※ 学習では、魚を与える教育から、どうしたら魚を捕ることができるか（魚の捕り方を）考えさせる教育に取り組みたい。

(3) 今年度の重点努力目標と目標達成のための方策及び評価

①生徒・保護者・地域に信頼される教育の実践

＜保護者及び地域の信託に応える学校＞		評価
実践目標	目標達成のための方策	
1 教職員としての崇高な使命感を自覚し、高揚を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・機能する組織づくり（情報の交換と共有、相互確認及び相互点検） ・コミュニケーション（報告・連絡・相談） 	
2 教育のプロとしての資質と人間力を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・自己研鑽を積む（本、研修、体験） ・チームとして、協働・教導していく。 	
3 開かれた学校づくりを進める	<ul style="list-style-type: none"> ・来客に優しい学校づくり（客は師なり） ・情報発信（学校だより等の各種だよりの発行と学校HPの随時更新） ・小中、地域連携を図った教育活動の創造 ・学校評価の工夫改善と公表 ・学校評議員、健全育成会等の積極活用 ・地域教育力の活用、地域行事への参加と貢献、育友会活動との連携を図る。 	

②特色ある学校づくりの推進

＜次代を担う人間を育てる学校＞		評価
実践目標	目標達成のための方策	
1 授業改善（教科及び道徳）と学力向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・教えて考えさせる授業の実践 ・「発問」を工夫した道徳の時間の充実 ・個別学習の支援 ・家庭学習の習慣化を図る具体的指導 	
2 キャリア教育を踏まえた進路指導、生徒指導の充実と部活動及び健康安全教育・食育の推進を図る。 JRCの実践目標： 「健康安全、奉仕、国際理解・親善」 JRCの態度目標： 「気づき、考え、実行する」	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の計画的な進路指導と情報発信 ・厳しいしつけと丁寧で愛情のある指導 ・読書活動の推進、新聞等の活用 ・人権、平和教育、福祉教育の充実 ・掲示教育の工夫と充実 ・生徒会活動の充実、JRC活動の進化 ・部活動の充実と体力・創造力の向上 ・日々の健康安全指導及び安全点検の徹底 ・「早寝・早起き・朝ご飯」と正しい食生活 ・師弟同行による無言清掃、美化活動 ・施設、設備の点検管理と充実 	
3 特別支援教育の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人を大切にし、個のニーズに応える特別支援教育の実践 ・交流学习の理解と充実を図る。 ・職場体験学習、作業学習を推進する。 	

③校内研修の充実と指導力の向上

＜教育の専門家が集まっている学校＞		評価
実践目標	目標達成のための方策	
1 課題と可能性を見極め、職員の英知で深める校内研修の推進 ※道徳教育とJRC活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校教育目標」「めざす生徒像」の実現を意識した日々の取組 ・「<u>つなぐ指導</u>」の実践（学習・生活） ・道徳とJRC活動をリンクさせた指導 	
2 学力充実と豊かな心の育成を支える教職員の資質と指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業と授業研究のレベルアップ（教科、道徳、特別活動）※評価 ・OJTの充実（<u>4分間スピーチ</u>と資質・指導力向上のための学び合い） 	
3 生徒のコミュニケーション能力と学力・体力・思考力・表現力・実行力を高める指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動と道徳性を意識した授業の構築 ・個の資質、習熟度に応じた指導の工夫 ・目標と指導と評価のサイクル化 ・読解力、コミュニケーション力の向上を意識した授業の工夫と創造 ・生徒の変容を具体的に語れる数値目標の設定と検証（目標管理シートに記載） 	